



繪本白狐傳

五

遠
2501
10-5



門 遠
2501
10-5

北邨芳

阿也可笑譚卷之五

明治

北邨屋識

凡士農工商もまくの職分家業を以て世に傳へられしは只我輩も今日と
營む事世上一般也然るに近世多分繪本の巻中も聊く白紙
あはれ種々の書又刑之賞あるを本偶或は苦難男女は
陰射あるを以て父子の中少く百を志免合事間も
是等々を以て一何の息も衆トて談きあはる併其職分
の道具へ海舟の舟の餅子あり著述控く筆者の誤り何
を只言語を以て其過越致免巻中何戲楽書ハ許し玉と
清ひ侍も法考方の見にくれなきと併せり筆舖の僥倖
と拙き筆を祈る事一爾

阿也可笑譚卷之五

法橋玉山戲作俚重

安奈茅渚の浦に後とる物語

いよゝあらばあらひよひん住吉にこしにやい
恋とれ貝や詠し戀せじと誓ひる歌あるを
そらやあねどすしれ濱を蛤蜘蛛刀神るを
多く生ひ出る天王寺三條中れ小路もすむ羽佛堂
老の暇くらなるに此濱よ出くする拾ひはるは

卷之五

佛麻呂住吉の濱に嬰を拾ふ



五



らいゝくわんれん。護艸ごしやくつひどつひどははとくとく忘わするることことなりなり。天曆てんりきの
 九年くわん。秋あき菊きく月げつのことじじ例れいのこと儀ぎききいていて貝かいをを
 嬰えい兒にのこと未み胞ほう衣いををええるるがが朝あさふふゆゆとと干かん瀉しゃ
 とと流ながととつつりり羽う主しゅりりるるにに最さい氣き高たかるる女に子しれれ
 死しももやや初はつ般ぱんたたくく啼なくくとと世よははたたくくひひああるるおおほほくく
 ととりりかかはは汝に路ろううたたくくひひななるるととたたのの泡うもも清きでで悪あくをを
 此こ女に子しれれ未みだだのこと捨すけけひひとと著しやくるる
 袴かほぬぬるる夏なつ中なかよよつつりり己おのれがが家いへをを帰かへりり他ひと人にのこと乳ちをを乞こ

痛いたりり六む月げつ七しちりり諸しよもも悪あく右みぎ衛ゑい門もん尉ゑい父ふ子しハハ都みやこをを
 追お放はなしし身みれれよよぶぶたたつつななりり大たい和わのこと國くにをを多たるる郎らうよよゆゆりり
 のことああるる其その所ところにに暫しばくく身みををままのことびびががおおのことぶぶ邪よこしまああるるややままひひ
 をを改か勵げんととりりのことああるる豊とよるる加か茂しげれれ保たも憲つとをを韃たつ面めんううりりよよ
 かかああるる零こぼ落れととりりかかもも恨うらみみみ此こ報はつおおりりのこと志し
 ままるるよよのことああるる京みやことと和わ泉いづみのことああるるととああるる豊とよるる海うみよよ
 沈しづみみ失なりりししいいふふああるるつつららししむむららひひのことああるるああるる
 せせららるるととああるるいいふふななししととああるる加か茂しげのこと保たも憲つとをを安やす泰たいをを婿むこにに

朝庭の気色もいよいよ... 保憲安奈の三人... 右衛門尉父子大和を... 加茂乃安奈... 間あるは... 耐... 外れ可立も

妻の葛れ母諫... 設け... 高保の妻... 中... 歎... 母... 程... 妻... 焦... 亡者の嬉し... 和泉...



女のつゆさひつるつるのりなきるやうに安奈のまが高保
まう人ふくねびさういふうを供にがしる興
惣是れ人々の和泉の目高保の君よりみりしよ
うむひさしる如くつら轎夫の助平あり安奈さうさ
かゝゝ何の故より侍人もさう遠を獨ありさや
と向を助平目の涙を浮ら豊子の海は沈みりし
より心乱ししとけりさうさ物語と安奈も
落涙をおもひさういふもほろほろおのちさう改り

このさう神しを妻の諫を扶きりし。豊子の沈きと
まいさう和泉の涙は被さうさあり。ゆゑはあか
にさ家小侍のまのや。舅保憲よりさう。叱拵尼天のほを
修し。加持し奉らむ。ほ心も鎮まらん。さうさうさ
さうさ。助平よりさういふほほさうさ。待さうさ
舞し。互に別を告あひし。安奈も主従に和泉路。高保
ハ。京をさうさう。泣き笑つねはり。都さうさ。の道の
程も。さうさ。遠さうさ。あり。終に。物狂ひの旅あれ。

道々いづべし和泉を歩く七中しよふ保憲が加茂の
館より着ぬ保憲の甥の二郎がね丸一人が地もあつて
来たし先は和泉より告ぐね丸一人あつて待まひ
とね丸が静なる小殿を押し入るゝ動も介抱せむとね丸
だもね丸のあつては芳はね丸の湯をひせ食を漬へ
さね丸一人あつてしよふとね丸のあつてはね丸一人
りしよふとね丸一人あつてはね丸一人あつてはね丸一人
さね丸一人あつてはね丸一人あつてはね丸一人あつては

安奈まゝをこゝろあつてしよふとね丸一人あつてはね丸一人
男あつてはね丸一人あつてはね丸一人あつてはね丸一人
よ一回とね丸一人あつてはね丸一人あつてはね丸一人
とね丸一人あつてはね丸一人あつてはね丸一人あつては
中をね丸一人あつてはね丸一人あつてはね丸一人あつては
館よりね丸一人あつてはね丸一人あつてはね丸一人あつては
仰天のあつてはね丸一人あつてはね丸一人あつてはね丸一人

よ二人が舟を走らするも引放ては
舟はまづひ蹟をよけしうらうら。二郎高保怒る眼よ
涙をうらまをる姫をりつら連やあまよの下郎を
あまを警つて引倒し目もくらあし。アタガ
うらうらひふしめとえ。あま後起あまの
歌をうらふいひあま。あまの氣あまはつた
との上臈ハ聖子の前へはみまの保憲の女若
後子後臈の母の若もさしよ。あまのうら曲を子

のあ方よはまも似ておしすも。あまのふりもれいお
あま入れもあまの餘り。あまの理あまのあまわ
あまも君を和泉の寺に住まぬ國の政事あつらあまあ
あまの口惜しもあま。ほり怒つたあまのあま
あまの高保もあまもや南あま。あまのあま
いゝな

七僧無菴安奈と格物をくら小物がら



安命を和息ある茅渚の浦よあり。かゝるごとく一夜に秘入
らるにたりおとあひ豊子七霊を祭るぬれば今ハハ
すこしとわかれまおぼくく。見るとるこよハ伝太の社よ
妻とひの抱きもあまきけぬれば満珠の幣まど捧ぎ
中らるを出く。さしをわひ出とむ此所を豊子よ初
く。見くしとありし。さうに涙の僅されく楠のちよ
まより見れば。去年まどあつ。もそつぬ首かづ
乃添整く蔓く。ねば前の戸帳よあつ。預

の若も葛の蔓あつ。さうに整くは首蔓の狐穴よ
生あつ。何あつ怪く。怒ろ。あ。其所を
出く。信吉は里よ。ねば。はさの連が小童。通ち郎が
さ。おひの出されく。さも面あつ。さ。さ。さ。
よけ。さ。安倍野の邑ハ旧郷。識く。彼女か。ら
あひ。さ。羽あ。つ。肝は。が。れ。顔。よ。ま。さ。ら。あ。つ。互の母
さ。う。さ。ま。さ。よ。涙。を。僅。し。浪。谷。江。さ。り。船。よ。ま。あ。り。山
城河を所。さ。あ。る。午。の。時。は。よ。つ。さ。さ。さ。羽。を

系よつるふ思はる法衣のあはゆけるよ綱代の裂
らとかりたる左僧の本の根又唇々休あり安
奈とどく勢をけ扱もゆけは業一ありのぞ
たられたら引くかき零落るるあらとど
らせましいふをまねど髪を刺られ信ちの村
長穀田軍を右衛門あり安奈驚く其はいふしいふ
軍を右衛門がからりあらはるはる下の仕業を
らうあれしいふ安奈この智このあらひの役を

を聞のふ汝とあら准面らりれ相識す何時か叙
し方とをからりあらはるもまたに恨む可く
そと露もふしと怒る軍を右衛門笑られたおや
いらう程りあれ所謂をらういふえよけせまや
系え来悪右衛門を睡ましたるは往還しる松の
こらいらいらいら二を信ずあらはる及所領を扱られ
り方こらいらいらびらりいらの和泉の目高保と聞え
し人はいふ右衛門父をまらしむのあらりおと悪お

扇門をまはるのほろは、果が謀計を荷擔せしめて、
疑われず家居田畑すも、も召くれば妻子親族も、つら
とて、方のまはるめ、さういふ頭をとて、さういふ、
と變人の門を鉢をさうさう、さういふ、さういふ、
の豊子姫をさういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

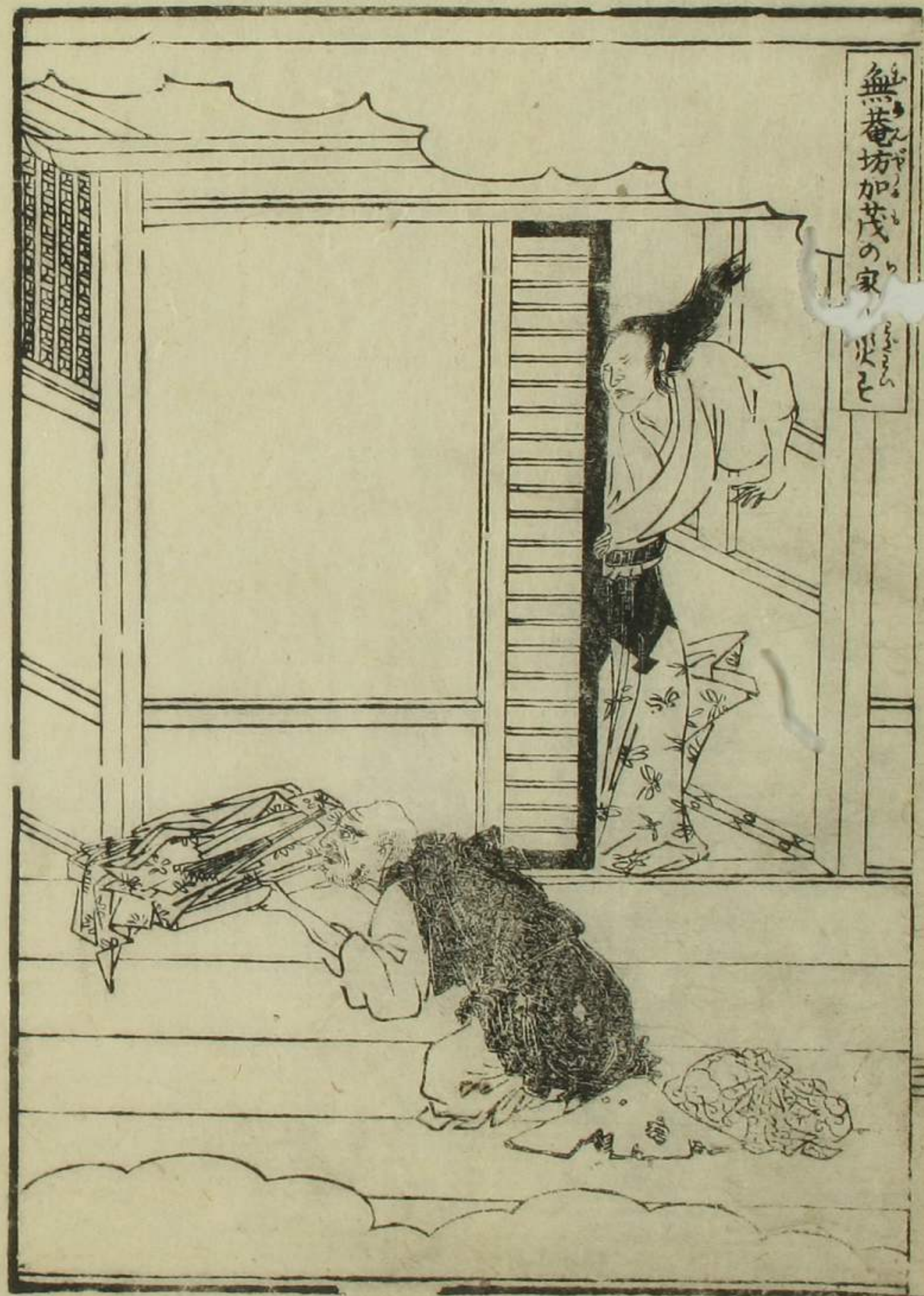
唯一遍の乞食僧と目して、さういふ、さういふ、
む、恨むのさういふ、さういふ、さういふ、
身の為乃仇となり、飢死さむと、七魂の鬼となり、
際、障碍あり、さういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、
さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

夫婦の合を情まごりどし出さぬもあはれなり
さほあつていさむぐ爪髪の外あいのとくはあし何を
布旅しまへんやせぬあつて密に館よまらる
て人妻よこころいんむり形勝るめせんしりあな無菴
面を笑をつくらむ巧みし匠加茂の館よる者も安
奈松子の隈は無菴を居しり暫く見所は待てぬ
と次の間へ入りがさやうおのちしこも閉中は
安奈が月比らごら妻あの新し信ちよ後たり

いんあつた女をさしり妻をせしやんうつて障
の間より眺まらる安奈と物語する女の片面はま
方あこ世をなかり無菴たこ驚と和泉の浦に身
を沈ちりりしは虚言さし安奈がいんあ入隠し
て妻よ具しらるせし思ふこころいんあしおれんた
らぬさほ待めらり安奈妻の首の母あまうりるは廣菴
よ白と小袖花田をの持衣未廣の扇子たは紙和銅乃
銭五十をのせよづり持虫無菴が前の直つたなり



半卷之五
十六



無菴坊加茂の家
火と

んのかけは... 受納... 齋の料...
... 戴... 櫛...
... 長居...
... 安奈も保憲夫婦...
... 豊...
... 罵... 者... 和泉... 二郎高保

あり... 驚... 點頭...
... 安奈... 高保...
... 保憲夫婦...
... 物... 首...
... 末... 幸... 様...
... 首...
... 可... 譚... 卷之五終



